

ウラジオストク滞在に関する報告について（8月分）

1. ロシア語学校について

ロシア語学校の授業は7月とほぼ同じで、「文法」「会話」「聞き取り」「ビデオ」の4科目で構成されています。最近はビデオで「Ирония судьбы（イローニア・スジブィ）」（運命の悪戯）という映画を用いて内容把握や聞き取りのトレーニングをしています。

8月もやはり先生が休暇などで交代となったり、クラスの規模が変化したため教室が変更となったりしました。

そして、8月下旬に入り全体的に新しい留学生が入ってきた印象があります。私の在籍するクラスでも8月末時点で新たに日本人1人と韓国人2人が加わり、計9人となりました。現在はアメリカ人1人、韓国人4人、日本人4人になっています。

また夏季休暇の期間ということもあり、各国から短期留学してくる学生も多く見られ、みな、短い期間でロシア語に慣れようと頑張っています。

2. ウラジオストク市内の状況について

・治安状況

当地で日本人が犯罪に巻き込まれたという情報はありません。ただ9月上旬に開かれる「東方経済フォーラム」（ロシア政府によるロシア極東地域の経済発展や投資の呼び込みを目指した大規模なフォーラム）にプーチン大統領が参加するということもあり、下旬に入り特に会場となるルースキー島の極東連邦大学周辺は整備が進み、警備も強化されています。

・気候

8月のウラジオストク市は、晴れた日には暑く湿度も高いため、外を歩くとかなり汗をかきます。ただ、雨の日が例年よりも多いようで、それほど暑い日が続くという印象はありません。ロシア人も8月は晴れる日が多いが、ここ2年くらいは雨が降ることが多いと言っていました。海水浴が好きなロシア人達は残念な表情を浮かべています。

3. ウラジオストク市における車の事情について

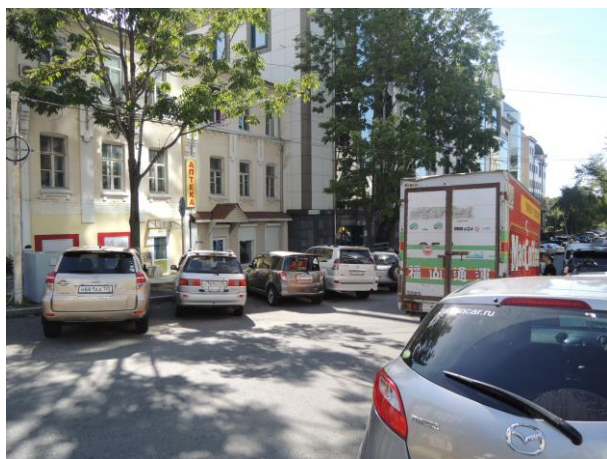
ウラジオストク市内は車の交通量が多く、路上駐車も多いため、特に朝・夕の通勤時間帯は慢性的な渋滞が起こります。そういった交通状況の中で、どのよう

な車が走っているかということ、その多くは日本車になります。

特に注目するのは車線が日本とは反対で右側通行であるにも関わらず、右ハンドルの車が多いということや、かなり車の年代が新しいということです。またタクシーに乗ると、ほとんどが日本からそのまま輸入された中古車のため、オーディオ機器や各所に見られる注意事項も日本語で記されています。

こういったウラジオストク市の車事情について、他地域のロシア人は羨ましいと思っているようです。なぜなら、ロシアの中でもウラジオストク市は車が安く、年代が新しいと言われているからです。ロシア中部に位置するノヴォシビルスク市のロシア人の話を聞くと、ロシア中部に来る日本車は値段が上がり、買えるのは古い年代の車だけだと言っていました。また、ロシア中部の都市の人々はウラジオストクで車を買って4日前後かけて自宅に運ぶこともあると話しており、ウラジオストク市では安く良い車が手に入ると言っていました。

このように日本から近いという地理的状況からウラジオストク市には日本車がたくさん集まっています。そして、こういった日本の中古車の多くが富山県から送られています。私が富山県から来ていると言うと、ウラジオストク市の人々は富山県の事を知っており、かなりの確率で「車が輸出される街か」と言われます。



(写真①、②：ウラジオストク市内の車)

4. アルタイ共和国への旅行について

ロシアは世界で最も面積が大きい国であり、その中には85の連邦構成主体と呼ばれる地方自治体が存在します。さらにこの連邦構成主体は州、地方、連邦市、共和国、自治州、自治管区に分けることができます。私が滞在しているウラジオストク市は沿海地方に属します。

今回、休暇を利用してロシア中部に位置し、カザフスタン、モンゴル、中国の3カ国と国境を接している、アルタイ共和国へ旅行に行ってきました。共和国と言っても国として独立しているわけではなく、一つの連邦構成主体になりますが、憲法や議会を有し、特定の民族による自治が行われています。

アルタイ共和国へは、まずウラジオストクからノヴォシビルスクまで飛行機で5時間かけて行き、ノヴォシビルスクからアルタイ共和国の首府であるゴルノ＝アルタイスクまでバスで8時間かけて移動します。私が行った時はバスが故障し2時間止まり、違うバスに拾われるというハプニングがあったので、計10時間ほどバスに乗っていました。

アルタイ共和国にはアルタイ人とロシア人が住んでおり、公用語はアルタイ語とロシア語になります。「アルタイ」とはアルタイ語で「黄金の山」という意味になり、ベルーハ山からモンゴルに連なるアルタイ山脈に囲まれた地域になります。

このアルタイ人は日本人との共通点が多く、一説では共通の遺伝子を持ち、日本語もアルタイ語と似ていると言われていています。実際に、その外見は日本人とよく似ており、アルタイ共和国がロシアの一部であることを忘れ、日本にいるのではないかと錯覚してしまうほどでした。

このアルタイ共和国は広大な自然景観が広がり、ロシア国内においても旅行先として人気が高い場所になります。実際に、山脈が広がり南に行けばステップ気候の高原がどこまでも広がるという素晴らしい景色がありました。特にアルタイに連なる山々は富山の立山にも似ており、室堂や弥陀ヶ原、みくりが池などの景色が思い起こされました。

今回の旅行では、普段滞在しているウラジオストク市とは違ったロシアを体験することができました。アルタイ人はロシア人ともまた違った気質を持ち、むしろ日本人に近いのではないかと思えるほどでした。さらに、アルタイ共和国やノヴォシビルスク市のロシア人自体もウラジオストク市とは違い、あまり外国人に慣れていないようなイメージを持ちました。そういった意味ではウラジオストク市は内陸の都市に比べると日本人にとっては旅行がしやすい都市になるかもしれません。他の地域に行くことでウラジオストク市の特徴が少し理解できたように思います。



(写真③ : アルタイの高原)



(写真④ : アルタイの山間)